

令和4年度 福生市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期) 施策評価調書

事前資料4-1

高齢者福祉計画と介護保険事業計画は、基本理念を「住み慣れた地域で、安心して、心豊かに生活するために～地域包括ケアシステムの推進～」とし、計画を推進していくために三つの基本目標を定め、具体的な取組を展開していきます。

●今期(R3～R5)のポイント
前期の計画は、第5期福生市地域福祉計画に含め進捗管理していましたが、今期の計画から介護保険事業計画(第8期)と一体的な計画として策定し、進捗管理していきます。

基本方針	施策の方向性	指標と目標				総括	
		指標名	R2	R3	R4		R5
			現状値	計画値	計画値		計画値
			実績値	実績値	実績値		
基本目標1 いきいき・すこやか	社会参加・生きがい P.32～P.33	介護サポーター事業の登録者数 (人)	46	53	59	65	・介護サポーターの主な活動場所は介護保険施設であるため、新型コロナウイルス感染症の影響で配食ボランティアのみの活動となり目標を達成できませんでした。 ・老人福祉センターの講座等の延べ参加人数は、感染対策に配慮しながら事業を実施した影響もあり、大幅に目標値を超えることができました。今後も高齢者の社会参加のきっかけづくりとなるよう各種事業を実施します。
		老人福祉センターの講座等の延べ参加人数 (人)	—	26	23	—	
	介護予防・フレイル予防 P.34～P.35	介護予防教室の参加者 (人)	173	400	400	400	
基本目標2 あんしん生活	認知症の支援 P.36～P.37	高齢者見守りキーホルダー・アイロンシールの登録者数 (人)	130	240	240	240	コロナウイルス感染症の影響が小さくなり、事業を予定通り実施することができました。他にも介護予防リーダーを中心とした公園体操の実施など、介護予防に地域で取り組めるよう支援しました。
		認知症相談窓口の認知度 ※	119	125	150	175	
		（基準は令和元年度 一般高齢者 31.7% 要支援者(認定者) 27.5%）	—	165	190	—	
	一般高齢者	—	—	35.7%	—		
	要介護者(認定者)	—	—	21.5%	—		
	要介護者(認定者)	—	—	31.5%	—		
見守り支援 P.38～P.39	救急医療情報キット新規配布人数 (人)	109	120	120	120	・高齢者見守りキーホルダー・アイロンシールは、外出に不安のある方も登録が可能となっており、主にご家族からの「介護に関する初めての相談」が多い様子です。 ・「認知症窓口の認知度」は令和7年度の次回調査時に令和元年度実績値の1割増加を目標としておりますが、中間年にあたる令和4年度の実績が計画値を下回りました。 ・令和4年10月から見守りステーションを開始し、まだ介護サービスにつなげていない高齢者を訪問するアウトリーチを充実しました。訪問の際に同じ話を繰り返すなど認知機能の低下が見られる場合は地域包括支援センターに繋げました。認知症は本人だけでなく、家族や周りの人への支援も大切です。認知症カフェ、認知症家族の会、認知症サポーター養成講座など、様々な施策を通して認知症相談窓口の周知を図るとともに、支援につなげていきます。	
生活支援 P.40～P.41	配食サービス事業の年間配食数 (食)	10,193	10,000	10,500	11,000	救急医療情報キット新規配布事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等の規模を縮小していたことから、配布数が計画値に届きませんでした。高齢者の見守りについては、救急代理通報システム等の事業と併せ、継続して実施しました。	
住まい・住環境の支援 P.42～P.43	自立支援住宅改修給付事業 (件)	36	30	30	30	配食サービス事業は昨年度に引き続き計画値に届きませんでした。入院やショートステイをはじめとした介護サービスの利用者が多く、配食サービスの利用者そのものが減少している状況でした。今後は更なる事業の周知や生活の状況に合わせた支援を継続します。	
基本目標3 ささえる介護	介護を支える地域づくり P.44～P.45	家族介護者教室の参加者数 (人)	36	30	30	30	手すりの設置等の自立支援住宅改修給付事業は、計画値に達しました。必要な方には入浴補助用具などの給付と組み合わせ、高齢者の生活にあった支援を行いました。
	リハビリテーションサービス提供体制の構築 P.88	リハビリテーション専門職による出張講座回数 (回)	57	78	78	78	令和4年度からは3つの地域包括支援センターで、家族介護教室を1回ずつ実施しましたが、参加人数が目標値に届きませんでした。認知症家族や当事者が集う場のオレンジカフェなどを7回実施しました。どちらの事業も地域の方の参加もあり、介護への理解や関心を高めることにつながりました。
	介護給付適正化計画 P.96～P.97	ケアプラン点検実施件数 (件)	0	7	7	7	リハビリテーション専門職の派遣依頼がなく計画値に届きませんでした。新たに通所C「元気塾」を開始しました。「元気塾」は短期間で生活動作や趣味活動がしやすくなるよう専門スタッフによる指導や声かけを実施し、一人ひとりに合わせたQOLの改善につなげる事業です。
			3	6	6	6	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面にて実施しました。今後も個々の受給者が真に必要なとするサービス提供に努めていきます。

※この指標は、3年毎に実施している高齢者実態調査の項目の一つです。次回調査は令和7年度を予定しています。